

子どもや環境を守るため他の事業をやめてでもやらなければならない 原案可決



ネット・市民の会
岩崎 みなこ

環境の拠点にグリーンライブセンターが変わるため
環境の拠点になることで1800万円近く委託料が増加します。しかし、成果指標は昨年と同じです。

環境の拠点の指標として何を設定すべきか、改めて検討すべきです。

こどもまんなかの予算とは

物価高で中学校の標準服も値上がりしています。

学校によっては6万3千円になり、10代のお子さんの家計を苦しめています。就学援助費は生活保護基準の1.4倍までの家庭に支給しますがそれ以上の収入が多少あっても生活の苦しさは変わらないと感じます。市長は、当初予算を段階的予算だとし補正予算を出すようですが、物価高に寄り添った施策の打ち出しは必要です。

優先順位が高いと言う「小学校体育館の空調と断熱」ですが、予算化していないためこの夏までに空調は付きません。これから、本格的に、暑くなります。日野市議が2020年に体育館を視察した報告の中では、断熱を施した模型での実験で、表面温度が53度でも内側は19度であったとの結果もあり、多摩市は出遅れた感は否めません。

まちの活性化と財源の確保は最重要課題 原案可決



多摩みらいの会
しのづか 元

将来の市民生活を支える財源の確保は重要な課題です。ニュータウン再生を進めるにあたって、産業振興と都市計画という、ソフト・ハード両面からのアプローチとなる計画の着実な実行と、その進捗状況が市民にも見えるような取り組みを望みます。

予算を評価。危機意識の共有を。 原案可決



志政会
藤原 マサノリ

財政の硬直化が進む中、義務的経費といえども聖域化することなく、ゼロベースでの事業の検証を。無駄の排除と優先順位を図り、最小の経費で最大の効果を生む創意工夫を。また、災害対策と日医大多摩永山病院の再構築は喫緊の課題。市民の命を守る施策を最重要視すべき。

こどもが暮らしやすい街はだれもが暮らしやすい街 原案可決



あすたま・維新
おにづか こずえ

子育て世代が働きやすい環境を！

令和7年度予算は685億5千万円、その中、物価上昇の影響で物件費が約26億円増加、扶助費は約20億円増加と厳しい影響を受けています。扶助費は子ども、高齢者、障がいのある方への支援など減らすことのできない予算です。

その中でも令和7年度は週5日開催される放課後子ども教室が2校増加し、こども誰でも通園

制度を実施する園が13園に増加、インクルーシブな広場は多摩中央公園に続き大谷戸公園でも整備されます。昨年は1万人が参加した、たまこどもフェスの開催なども予定され、会派と致しましては大変期待するものであります。

循環型社会は教育を含めて実践体制を 原案可決



多摩の風
折戸 小夜子

- ①公園緑地、街路樹の落ち葉を自区内処理堆肥化し、都市農業への支援や公園内の土壌改良の実施は環境を保全し、持続可能な社会への基盤作りだと指摘。
- ②多摩センター駅バス停ロータリーは居心地が悪い。汚い、暗い、路面が滑る、日差しがきついなどの市民の声が多い。優先的に解消対策を。

安全安心に市民が未来まで住み続けられる環境整備 原案可決



青空りっけん
しらた 満

歳入の利子割交付金、令和7年度1億4253万円、令和6年度4280万で233%増。これは日銀の預金利率の上昇による。経済情勢に注意し減少へのリスクを考慮すること。災害時、物資を集積する市役所への緊急輸送道路の無電柱化と避難場所の小学校体育館エアコン設置が市民を守るには急務。

日医大建替え問題と、抜本的な行財政改革は目下の課題！！ 原案可決



日本維新の会
藤條 たかゆき

税収は過去最高も、物価や人件費高騰が影響し、財政調整基金から大きく切り崩しが行われました。前年踏襲の予算編成ではなく、抜本的な行財政改革が急務です。日医大多摩永山病院の建替えやウォークブル推進都市の実現、自動運転や共助版ライドシェア等で地域交通の再編成が求められます。

義務的経費とは…

支出することが義務づけられていて、任意には削減できない人件費、扶助費、公債費のこと

財政調整基金とは…

財政状況の悪化により財源が著しく不足する場合等に、貯金をおろし不足を補うことを目的とする基金で、いわば普通預金のようなもの

